理解度&釣れる度100%

マルキュー

優良餌本®

KEEP YOUR GOOD FISHING
爆釣を約束する餌本です

実寸大エサ付け&オモリ解説付き

へらエサパワーブック

HERA BAIT POWER BOOK

2012

ふゆはるごう

冬号

Contents

02 段差の底釣り
16 ウドンセットの浅ダナ釣り
22 ウドンセットのチョーチン釣り
28 両グルテンの沖宙釣り
30 グルテンセットの沖宙釣り
32 両グルテンの底釣り
34 グルテンセットの底釣り

段差の底釣り
釣り方の基本

段差の底釣りではへら鮒を急いで寄せるよりも、じっくり時間をかけて確実に底付近に集魚しながら徐々にアタリが増えていくほうが釣れ続きます。そのためには確実にバラケを持たせ、ウキを深ナジミさせることが大事です。イメージとしては水中を落下して行くバラケの3分の2以上はねらいのタナまで届く感じです。

そして大切なポイントが、ウキがナジんだ後、バラケをハリに残しながらジワジワ開かせるのか、それとも塊のまま一気にハリから抜いてしまうのかの選択です。どちらが良いかは状況次第なので、バラケのブレンドやタッチ、さらにエサ付けの際の圧加減でこのタイミングをコントロールし、確実にアタリにつながるバラケの使い方を心掛けることがキモとなります。

理想的なアタリは深ナジミしたトップが戻り、バラケが上バリから抜けたあとで「カチッ」と小さく決める明確なアタリです。しかし、すべてのアタリがこのタイミングででる訳ではなく、バラケがまだ残っているときや、バラケが抜けたあと、くわせエサだけになった状態で数分間待ってからでないとアタらないこともあります。

バラケが残っている状態も含めて早いタイミングでアタリがでる場合は、ウワズリを生じない限りそのアタリを積極的に取ることが釣果を伸ばす秘訣です。しかし、ウワズリの兆候が表れたり、アタリがでなくなったりする場合は早いアタリは極力見送り、ウワズリを招く恐れがない、バラケが完全に抜けてからのアタリに絞り込むことが大切です。

また、底釣りであることから正確な底ダテとタナの微調整は必要不可欠となります。初期設定は下バリトントンが基本ですが、あまりにギリギリではくわせエサが底から離れてしまう恐れがあり、またくわせエサを底に安定させる観点から2～3㎝ズラシたところを基点とす

●くわせエサ

くわせエサはエサ持ちの良いウドン系固形物を使うのが基本。ウドン（重さや太さでの使い分けもあり）・「感嘆」（重さや色の使い分けあり）・「力玉」（サイズの大小あり）などを状況に合わせてチョイスする。食いが渋いほど軽めのエサを使うのがセオリーだが、底の状態や魚影密度などによっても変わることがあり、常に数種類用意しておくことが肝心だ。

るほうが無難でしょう。

基本的なタナ調整の手順は、明確なアタリで空振りが目立ったり、モゾモゾとしたサワリだけでハッキリしたアタリにつながらないときは、底に着いたくわせエサが食いにくい状態になっているものと判断し、2～3㎝ずつズラして安定したアタリが持続するタナを探ることも重要なポイントです。

セッティングの注意点

へら鮒の活性が低下する時期の繊細な釣り方なので、すべてにおいて軽く・細く・小さくといった基準でセッティングすることを心掛ける。とくにアタリをハッキリだすためにはウキの選定と下ハリスの長さが重要で、食いが悪いほど浮力を小さく、またハリスは細く長くする。

●オモリ 実寸大

「絡み止めスイッチシンカー」0.8g ＋ 0.25 ㎜厚板オモリ 8 ㎜ ×30 ㎜～「絡み止めスイッチシンカー」1.2g ＋ 0.25 ㎜厚板オモリ 8 ㎜ ×30 ㎜

～

＋

※「絡み止めスイッチシンカー」と調整用板オモリ径を合わせたほうが良いため巻付け長さを 30 ㎜に設定

■水深 2 ～ 4m 用セッティング

竿●8～ 13 尺
ミチイト● 0.6 ～ 0.8 号
ウキ●羽根寸 10 ～ 13 ㎝
細パイプトップ
または PC ムクトップ

ハリス●
上 0.4 ～ 0.5 号 10 ～ 15 ㎝
下 0.3 ～ 0.4 号 45 ～ 60 ㎝
ハリ●上 6 ～ 8 号、下 2 ～ 4 号

セッティングの注意点

タナが深くなることでバラケの持ちが悪くなるので、上バリを大きくして確実にバラケをタナに送り込むことが肝心。また水深が深い釣り場ほど下ハリスを長くするとアタリがでる傾向なので、あまりにアタリが少ないときは基準にこだわらずに、さらに長い超ロングハリスも視野に入れたい。

●オモリ 実寸大

「絡み止めスイッチシンカー」0.8g ＋ 0.25 ㎜厚板オモリ 8 ㎜ ×30 ㎜～「絡み止めスイッチシンカー」1.2g ＋ 0.25 ㎜厚板オモリ 10 ㎜ ×30 ㎜

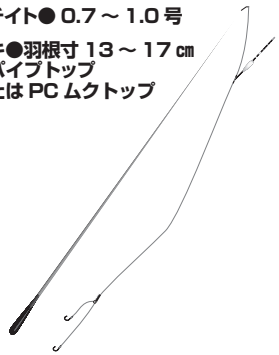
～

＋

※「絡み止めスイッチシンカー」と調整用板オモリ径を合わせたほうが良いため巻付け長さを 30 ㎜に設定

■水深 4 ～ 6m 用セッティング

竿● 14 ～ 21 尺
ミチイト● 0.7 ～ 1.0 号
ウキ●羽根寸 13 ～ 17 ㎝
細パイプトップ
または PC ムクトップ



ハリス●
上 0.4 ～ 0.6 号 10 ～ 15 ㎝
下 0.3 ～ 0.4 号 45 ～ 75 ㎝
ハリ●上 6 ～ 8 号、下 2 ～ 4 号

段差の底釣り
覚えておきたい釣り方のコツ

くわせエサはウドンだけじゃない！

厳寒期に活躍する段差の底釣りでは、待ち釣りになるのはいたし方ないこと。このため解けない（開かない）くわせエサやハリ抜けし難いくわせエサを使うのが一般的。よって必然的にウドン系固形物を使うことになる訳だが、ある特定条件の下では他のくわせエサのほうが良いこともある。

例えばまだ活性が残っている時期での新べら放流直後。概ね12月一杯が釣り期となるが、特に大型（超大型）といわれる新べらをターゲットにする場合、グルテンを使うとウドン系固形物よりもアタリが多く、しかもアタリのでるタイミングが早いことがある。

当然グルテン繊維が強くて多いくわせタイプのグルテンを使うのがセオリーだが、通常の底釣りで使うものよりも硬く仕上げ、サイズも小さめで使うのがコツとなる。

さらに底の状態が悪い釣り場（ポイント）などで、固形物ではヘドロに埋没してしまうようなときには、ヘドロのなかに沈みにくい繊維質のトロロ（ヒゲトロ）などのくわせエサが効果的なこともある。

いつでもどこでも通用する訳ではないが、明らかにへら鮒の反応が良い釣り場があるので準備だけは忘れずにしておきたい。

●ウドン以外のくわせエサ

新べらをターゲットにする場合は、「グルテン α21」や「本グル」などの繊維の強いタイプをくわせエサに使う。このとき、少し硬めに作るのがコツ。また、釣り場によっては「ヒゲトロ」が効く釣り場もあるので用意しておきたい。

渋いときだからこそのアタリを増やすテクニック！

ただでさえアタリが小さい時期の釣り方なので、ラインテンションの強弱でアタリがでたりでなかったりすることが多い。タナが合っていてタックルもエサも良いのにアタリがでないときはこうした原因を疑って欲しい。

ラインテンションに変化をつけるには竿尻を手前に引く「引き誘い」と竿尻を前方に押しだす（送りだす）「押し誘い」が有効だ。動かす距離や強さに変化をつけて誘うのが、食いの渋いへら鮒の摂餌を促すには効果的な誘い方と言えよう。

また流れなどでウキがシモるとアタリがでなくなることがある。こんなときには竿先を持ち上げて、アンカーになってしまったくわせエサを一旦底から引き離す「縦誘い（クワセの置き直し）」が効果的。持ち上げたあと、改めて底の良いポイントに置き直すことで食いやすい状態を作りだしてやるわけだ。

さらに同じような狙いで、アタリがでにくくなったポイントから意識的にエサ打ち点をズラすことで、底の荒れていないポイントでへら鮒の食い気を誘発させる方法もある。

いずれにせよアタリが少ない時期なので、漫然と同じことを繰り返すのではなく、少しでもへら鮒にくわせエサの存在をアピールする方策を取ることが貴重な一枚へとつながるのである。

パターン①
「段底」ベースの王道バラケブレンド

粒戦100cc＋水200cc＋
段底400cc＋
セット専用バラケ400cc

＋

＋

＋

●作り方

「粒戦」をボウルに取り、水を注いだら全体に行き渡らせ、５分ほど放置して充分吸水させてから「段底」を入れて熊手でザックリ混ぜる。続いて「セット専用バラケ」を入れて丁寧に熊手でかき混ぜ余分な水分を絡め取る。

●特徴

バラケ性の強い「粒戦」と「セット専用バラケ」を適度なネバリのある「段底」でまとめるブレンド。いずれの素材も縦バラケ重視の高比重タイプなので、早めにバラケを抜いてもウワズリにくく、待ち釣りはもちろん食いが良いときは「抜き系」の攻撃的な釣りができる。

●使い方のコツ

基エサはネバリをほとんど感じないフワッとしたタッチなので、軽くまとめただけでは直ぐに開いてしまいタナまで持たない。そんなときにはエサ付けの際にしっかり圧を加えてエアーを抜くのがポイント。うまくエサ付けできないときは小分けしたエサに少量の手水と強めの押し練りを加え、多少ネバリをつけてもOK。タナで一気に抜くのが基本スタイル。

段差の底釣り

ブレンドの考え方

ウワズリ防止、タナ安定

粒戦
直下に沈下する粒状ペレットで、嗅覚のみならず視覚的にもヘラの摂餌を刺激。特にバラケを早く抜く攻めの段差の底釣りの際には、ウワズリを抑制しタナを安定させる効果が大きい。

ベースエサ

段底
まとまり感のあるタッチに仕上がる特性を活かし、落下中の開きを抑えて確実にタナまでエサを持たせ、高比重の縦バラケでへら鮒のウワズリを抑えながら、食い気の落ちた低活性のへら鮒の食い気を刺激する。

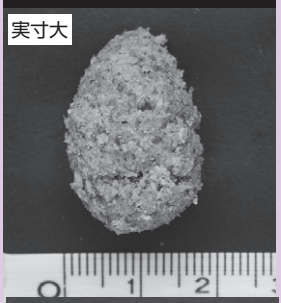
バラケ性 UP、集魚効果

セット専用バラケ
極めて強いバラケ性と大きな比重特性を活かすことで、タナで一気にバラケを抜いて直下に集魚することで競い食い状態を構築し、早い食いアタリを導きだす攻撃的な段差の底釣りが可能になる。

水深が深い場合など、タナまでしっかり持たせたいときは「底バラ」と入れ替える

底バラ
ボソでありながらまとまり感があるのが特徴。適度なネバリで落下途中での過剰な開きを抑制すると同時に、エサ付け時の圧加減で抜くタイミングをコントロールしやすい段差の底釣り用エサ。

●エサの大きさ



水深が浅い場合

水深が深い場合

パターン②
タナまでしっかり持ちながら膨らみ良く寄せを強調

ペレ道100cc＋新B200cc＋スーパーダンゴ200cc＋底バラ200cc＋水200cc

●作り方
「ペレ道」、「新B」、「スーパーダンゴ」、「底バラ」を粉のうちに混ぜ合わせ、そこに水を注いで20回ほど熊手でかき混ぜしばらく放置。5～6分経ったらに小分けにして、5～6回押し練りを加えてエアーを抜いて使う。

●特徴
水深が比較的浅い場合は、その分だけタナでの膨らみ（バラケ性）を高めることを考え、重さとネバリは「ペレ道」で「新B」「スーパーダンゴ」はエサを開かせ、なおかつ「底バラ」の集魚性で縦の寄りを保たせる。

●使い方のコツ
基エサを小分けにして「押し練り」を加えながら、ナジミ幅がでるようにしながら、ゆっくりとウキが返してくるように調整する。軟らかめに仕上がるので丁寧にハリ付けしてエサ持ちを良くする。エアーを抜き過ぎると塊のようなダンゴエサになるので注意。また､浅いナジミ幅（1～2目盛）で釣る場合は、エサのサイズや付け方を工夫して、ネバリをだし過ぎないようにするのがコツ。

段差の底釣り

ブレンドの考え方

ベースエサ

ペレ道

ペレット効果で集魚性と重さがあり、底に魚を落ち着かせることができる。細かな粒子でウワズリを抑えて、エサ持ちも良くさせる。

エサ持ちをアップさせたいときは「段底」と入れ替える

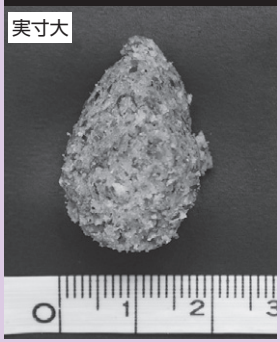
底バラ

細かな麩材とさなぎ粉のブレンドでネバらずエサを開かせることができる。単品使用でも良いぐらい段差の底釣りのバラケエサに適している。

バラケ性 UP

スーパーダンゴ
バラケ性に優れ、細かな粒子が下方に落下し魚を下に向かせることができる。また、エサをいじり過ぎてもバラケ性が弱まらない。

●エサの大きさ



集魚効果、膨らみの良さ

新B
さなぎ粉が大量に配合されており、非常に集魚性が高く、硬めの麩材が入っているため、水中での膨らみが良い。また、ネバリ加減の微調整がしやすい。

パターン③
「ペレ道」の重さでウワズリを抑える抜き系

ペレ道200cc＋水200cc＋スーパーダンゴ400cc＋段底200cc

●水深が深い場合
ペレ道200cc＋水200cc＋スーパーダンゴ200cc＋段底400cc

●作り方
「ペレ道」に水を注いだら全体に行き渡らせ５分ほど放置する。充分に吸水したら「スーパーダンゴ」と「段底」を入れて熊手で大きくかき混ぜる。均一に混ざり合ったらダマが残らないように丁寧にほぐしておく。

●特徴
圧倒的な集魚力と高比重を持つ「ペレ道」をベースに、ブレンドの汎用性が高く軽めでバラケ性の強い「スーパーダンゴ」を「段底」でまとめるブレンド。非常にバランスのとれたまとまりの良いバラケで、エサ付けの際の圧加減でバラケを一気に抜くことができるのが特徴。

●使い方のコツ
基エサは重さを感じないほどエアーを含んだ仕上がりとなるが、エサ付けの際にチモトを強く押さえ過ぎないのがコツ。これはタナに届いてからへら鮒に触らせ塊のまま一気に抜くためで、これにより速攻ながらもウワズらせることなく確実に底周辺に集魚することが可能となる。エサ持ちに不安を感じるかもしれないが、タナまで確実に持つことを信じて使いたい。

段差の底釣り

ブレンドの考え方

ベースエサ

ペレ道

段差の底釣りでは致命傷となるウワズリを起こさないために必要な重さと、厳寒期に活性の低下するへら鮒に対しても有効な強力な集魚力が特徴。タイミング良くバラケを抜くと塊で底に落下し確実にへら鮒の足止めをする。

バラケ性 UP、他のエサを活かす

スーパーダンゴ
微粒子で軽めの性質は他の麩材との相性も良く、経時変化によるネバリがでにくいので他のエサの特徴を余すことなく引きだす。ブレンド量を増やせばバラケ性を増すことができ、水深の浅いところでは速攻の段差の底釣りが可能になる。

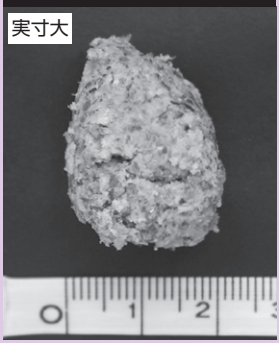
まとまりでタナまで持たせる

段底
高比重でありながらまとまる性質を活かし、ブレンドのつなぎ役として水中落下中のバラケを抑えてタナまで持たせ、塊で抜いたバラケをいたずらに横方向に拡散させることなくポイントに滞留させる。

追い足し用

粒戦
基本ブレンドには含まず後から追い足して使用する。主にウワズリを感じたときやなかなかくわせエサに食いつかないとき、ハシャギを落ち着かせたり摂餌欲求を刺激するために使うと効果的。（※「粒戦」200 cc＋水 100 ccで完全に吸水させたものを使用）

●エサの大きさ



パターン④
タナでジワジワ抜けるしっかりめのブレンド

粒戦100cc＋水200cc＋ガッテン400cc＋粒戦細粒35cc＋段底300cc＋スーパーダンゴ200cc

●作り方
「粒戦」に水を入れ、ふやけるまで放置してから「ガッテン」と「粒戦細粒」を入れて混ぜ、水が浸透するまでしばらくおく。そこへ「段底」と「スーパーダンゴ」を入れて、熊手で大きくかき混ぜる。均一に混ざり合ったらダマが残らないように丁寧にほぐす。

●特徴
「ガッテン」がエサ全体のネバリ、「粒戦細粒」がエサのつなぎ役で、そこに重さをつける「段底」、開きを担う「スーパーダンゴ」をブレンドしたもの。開きすぎることなく、しっかりしたバラケエサになる。

●使い方のコツ
　タナへしっかりナジませて使うエサなので、ナジミが浅いようなら基エサを小分けして、押し練りを加える。また、ウキの戻しが早い場合は、必要以上に開かせないようバラケの表面を丁寧に転がしてエサ付けしたい。エサ打ちを繰り返していくうちに、ウワズリが気になるようなら、「粒戦」を少しずつ追い足していく。

段差の底釣り

ブレンドの考え方

ウワズリ防止

粒戦
タナで膨らんだバラケエサからこぼれ落ち、また麩エサより落下速度が速いので、アピール性もあり底へ魚を呼び込める。

ベースエサ

ガッテン
ネバリのでるダンゴ用エサで、エサを持たせるねらいでベースとすることで、しっかりとタナまで持ち、さらに、一気に抜けることなく、ジワジワと抜けるエサが作りやすくなる。

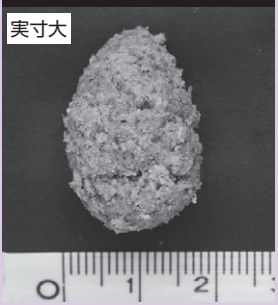
つなぎ役

粒戦細粒
ペレットのネバリを利用してエサとエサのつなぎ効果を生むと同時に、重さ付けにもひと役買っている。

重さをつける

段底
段差の底釣りのバラケにはあるていどの重さが必要で、その重さを担う重めの麩が配合されているうえ、下方向への抜けもよいことから、地合を作る効果も期待できる。

●エサの大きさ



バラケ性を担う

スーパーダンゴ
バラケ性に優れているが、細かい粒子なので、他のエサとのブレンド性に優れている。ベースがまとまるタイプなので、タナで膨らんでからの開きを促進させる役目をする。

パターン⑤
圧調整でエサの持たせ方が自由自在

粒戦50cc＋粒戦細粒50 cc＋段差バラケ 200cc＋段底 100cc＋水 100cc

●作り方

「粒戦」、「粒戦細粒」、「段差バラケ」、「段底」を粉のうちに混ぜ合わせ、そこに水を注いで 20 回ほど熊手でかき混ぜる。この段階では、水っぽい感じだが、しばらく放置すると「粒戦」と「粒戦細粒」が水を吸ってかなり締まってくる。締まってきたらもう一度軽くかき混ぜてから使い始める。

●特徴

　エサが締まってくるとエサ付けもしやすく、また、圧をかけた分だけエサ持ちがよくなるので、ナジミ幅の調整が非常にしやすい。エサ付けが苦手な人でも使いやすいと感じられるはずだ。

●使い方のコツ

「粒戦」と「粒戦細粒」によりエサが締ってくるので、作ったエサを半分に小分けして使うとよい。調整は手水のみで OK だが、エサが締まりすぎてきたと感じるときは「セット専用バラケ」をパラパラと振りかける。大量に作らず、こまめに作り直していくほうがベターだが、エサができあがるまでに時間がかかるので、エサを打ち切る前に作り始めたい。

段差の底釣り

ブレンドの考え方

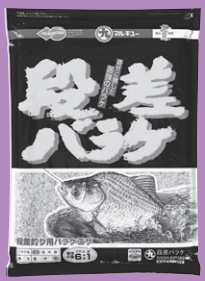
底にへら鮒を寄せる

粒戦
下方向への落下によるアピールは、バラケエサには欠かせない存在。底付近にいる魚をくわせエサのある底へ導く。

つなぎ役

粒戦細粒
微粒子のペレットが適度なネバリによるまとまりでエサ全体をつなぐが、麩によるネバリとは違い、バラケ性もキープできる。

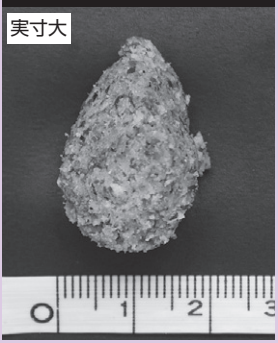
ベースエサ



段差バラケ

集魚性が極めて高く、麩の粒子が大小混じって配合されているので、アピール力のあるバラケエサとして軸になるエサ。

●エサの大きさ



重さと集魚効果

段底
ペレットとさなぎの粒子を配合し、縦方向へのバラケ性を強化。さらに重さがあるので、ウワズリを抑えて強力に魚を底に集魚する。

ウドンセットの浅ダナ釣り
釣り方の基本とコツ

短ザオの釣りでは、一定のリズムで釣っていくのが基本的に求められます。エサを打ち、アタリにアワせて打ち返すのが理想ですが、そのためには寄せが少なくてもダメですし、かといって寄せすぎても釣りづらくなります。

この一定のリズムを作っていくには、まずはエサ打ちでリズムを作ることからはじめてください。エサで魚をコントロールするのではなく、エサ打ちのリズムでコントロールするイメージを心がけましょう。

このリズムというのは、エサを打って深くナジませてアタるのか、ナジんだところから戻りだしてアタるのか、バラケが抜けてウドンだけでアタるのか、というその日の状況を探り、一番反応の良いパターンを見つけて、それを一定のリズムで繰り返すこととなります。その後で、バラケの抜けるタイミングを探っていってください。

現在のウドンセット釣りは、前の1投の粒子を吸っているところへ次の1投で釣るイメージを持つことが大事で、その1投のバラケとくわせで釣りを成立させるのが、むずかしくなっています。ですから、すべてのエサが下方向へ向かうのではなく、横に漂うものもブレンドしなくてはなりません。また、エサの幅を広く使える（硬軟）のも短ザオのメリットですから、ブレンドだけにとらわれることなく、バラケエサの硬軟、大小と色々探っていくことも重要です。

厳寒期などでは、短い竿ではアタリすらでないこともありますので、そういったときには竿を長くしてみるのもひとつの選択肢です。また、

●くわせエサ

くわせエサは、種類によってその日反応するものがあるので、「魚信」（1分包に水70～75cc）、「力玉大粒」のさなぎ粉漬、「力玉」、「感嘆」（粉20ccに水30cc）といくつかを用意したい。これを打ち分けて、その日の状況や1日のうちでも食いの良い時間帯、渋る時間帯などで使い分けたい。基本的には、活性があるときは「魚信」をメインに、渋くなれば「力玉」、「感嘆」と軽めのくわせエサに変えていく。

新べら混じりの型揃いの釣りができることもあります。短竿に比べて釣りの回転はどうしても遅くなりますが、沖めにいる攻められていない魚や警戒心の強い大型がねらえるのが魅力です。

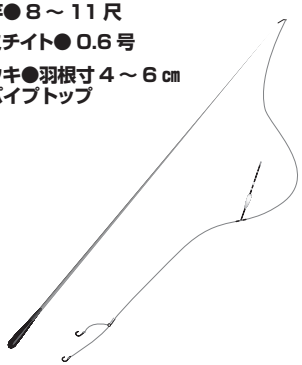
中尺で沖めをねらう釣りでは、まず、振り込みの問題があります。振り込みには多少の技術を要しますが、エサ、オモリ、ウキを大きくすると振り込みはしやすくなります。そして、使えるエサの幅が短竿に比べて狭くなりますので、なんでもかんでも寄せるのではなく、しっかりタナに呼び込むイメージが大切です。ですから、ややしっかりしたバラケを使い、しっかりナジませてタナを作っていくことです。あまり開くエサを打つと、食い気のない魚を含めて必要以上にへら鮒を寄せてしまい、こうなると釣りづらくなりますので、注意してください。

セッティングの注意点

渋ければ渋いほど、ラインは細くウキは小さくというのが基本的な考え。ハリスの長さは、短めから入ってアタリがでるまで伸ばしていくか、長めから入り、ヒット率が高くなるまで詰めていくかのいずれかで探っていくのがよい。セッティングが合ってないとウキが動かないこともあるので、そういう場合はまずウキのサイズをワンサイズ小さくしてみよう。

■短竿用セッティング

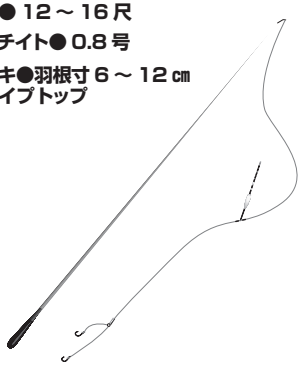
竿● 8～11尺
ミチイト● 0.6号
ウキ●羽根寸4～6㎝
パイプトップ



ハリス●
上0.4～0.5号6㎝
下0.3号25～50㎝
ハリ●上5～6号、下2～3号

■中尺用セッティング

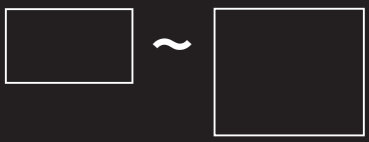
竿● 12～16尺
ミチイト● 0.8号
ウキ●羽根寸6～12㎝
パイプトップ



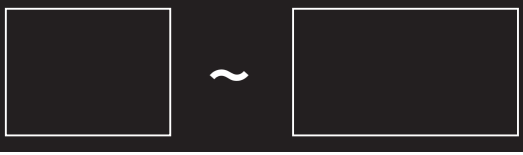
ハリス●
上0.4～0.5号6～8㎝
下0.3～0.4号35～60㎝
ハリ●上6～7号、下2～3号

●オモリ 実寸大

短竿の場合
0.25㎜厚板オモリ 10㎜×17㎜～17㎜×20㎜



中尺の場合
0.25㎜厚板オモリ 17㎜×22㎜～17㎜×30㎜



短竿（8～11尺）向きバラケブレンド

重さがあって開きのあるブレンド

粒戦 100cc＋水 200cc＋
新B 200cc＋GTS200cc＋
セット専用バラケ 200cc

●作り方

「粒戦」をボウルに入れ、水を注いだら全体に行き渡らせたら５～６分ほど放置。そこに残りのエサを入れて熊手で大きくかき混ぜる。決して練ったりしないで仕上げること。

●特徴

「粒戦」と重めの麩である「新B」による重さと、「新B」と「セット専用バラケ」による開きがありながら、「GTS」によるまとまりにより芯残りもあるので、タナへ入ってからの抜け具合が調整しやすくなっている。

●使い方のコツ

　かならずウキを１回ナジませてから、すぐ抜くのか、ジワジワ抜けるのか、ゆっくり抜くのかを探っていくこと。ウキをナジませるときは、エサを練ったりすることなく、大きさとエサ付けの圧でナジミ幅をコントロールすること。硬さ調整は手水で、持ちが悪い場合は「軽麩」、「BB フラッシュ」、「浅ダナ一本」、重さが欲しい場合は「ダンゴの底釣り夏」、「グルバラ」で調整する。

ウドンセットの浅ダナ釣り

ブレンドの考え方

ベースエサ

新B

硬めの麩材が入っているため、水中での膨らみが良いことからタナでのバラケ性がねらいで、さらにさなぎ粉が大量に配合されており、非常に集魚性が高いことからもタナへの集魚に効果がある。

セット専用バラケ

ネバリがでにくい性質なので、時間が経ってもバラケ性をキープできるセット釣り専用のバラケエサ。粗い粒子の「新B」と対をなすような細かい粒子で縦方向のバラケを演出する。

ウワズリ防止

粒戦

タナで膨らんだバラケエサからこぼれるように落下するので、へら鮒を下方向へ導くことができ、ウワズリの防止に最適なエサ。

●エサの大きさ

エサ全体をまとめる

GTS

練っていくことでまとまり感が増幅するエサなので、圧の掛け具合でエサ持ちをコントロールするためにブレンドする。

中尺（12～16尺）向きバラケブレンド

ダンゴタッチで使いやすい！

①粒戦 100cc＋水 100cc
②特 S400cc＋ GTS400cc＋水 200cc

●作り方

①別ボウルに「粒戦」を水で溶いておく。②「特 S」、「GTS」をボウルに入れて混ぜ合わせ、そこに水を入れてかき混ぜる。②に①の半分を入れて均一になるよう合体させたのを基エサとする。

●特徴

「特 S」と「GTS」という組み合わせは、ダンゴエサに近いもの。これは竿が長くなることから、バラけやすい麩や水分を多くして開かすには限界があり、しっかりまとまるバラケエサでないと振り込めないからだ。そしてこのダンゴエサに近いものに「粒戦」を足すことで開きを調整している。

●使い方のコツ

基エサで打ち始めて、サワリが少ない、へら鮒の寄りが悪いときに、①で残してある「粒戦」を足していき、エサをバラける方向にしてウキの動きを増やしていく。それ以上にバラケ性を増やしたいときは「スーパーダンゴ」、「セット専用バラケ」、「パワー・X」など硬めに仕上げてもバラけるものを足していく。

ウドンセットの浅ダナ釣り

ブレンドの考え方

ベースエサ

特S

ダンゴのタッチにスイミーの集魚力をプラスした宙釣り用ダンゴエサ。スイミーの効果で集魚力があり、適度な重さがウワズリを抑え、タナを安定させる。

GTS

エサのまとまりがよいながら、適度にバラケるのでへら鮒を寄せる効果があり、押し練りや圧調整で持ち具合を調整しやすいので、バラケエサに入れると使いやすくなる。

エサを開かせる

粒戦

バラケエサに混ぜるとエサが膨らんだところから、ボロっとこぼれるようにバラけるので、入れる量によりバラケ具合を調整することが可能となる。

●エサの大きさ

ウドンセットのチョーチン釣り
釣り方の基本とコツ

ウドンセットのチョーチン釣りの基本は、まずは1回ウキを深く入れる（エサをしっかりナジませる）ことです。そこから〝縦誘い〟を入れ、バラケの煙幕を常に作り、その中にくわせのウドンエサを漂わせて食わせる釣りになります。

ここで、バラケエサが簡単にハリから抜けたほうが良いのか、5～6回の誘いでエサ切れしたほうが良いのか、さらには10回位の縦誘いに耐えられるほうが良いのか、その日の時合を見極めていくのがポイントになります。

水温の低下とともに〝パワー系〟と言われるボソの強いバラケエサよりもややしっとり気味がよくなる傾向で、誘い方も大きく誘うよりもトップ3～4目盛分だけ誘うほうが反応するようになってきます。

バラケエサの持たせ方は大きく分けて2種類あり、ひとつは〝硬さ〟で持たせる方法、もうひとつは〝ネバリ〟で持たせる方法です。これは魚の活性や魚影の多少で対応していきますが、どちらにしても上バリは大きめが良く、6～8号を使用するとエサ持ちも良くなります。くわせのハリは3～6号を使い分け、へら鮒の煽りや誘いでウドンがハリから抜けないようにします。

ハリスの長さは上ハリスが6～8㎝で、これは長さを固定しても問題ありません。下ハリスは、活性が高いときは短バリス（20㎝前後）で決まることもありますが、最初から短バリスで始めるのは危険ですので、30～60㎝ぐらいの範囲で探ると良い

●くわせエサ

通常はエサ持ちを重視して「魚信」1分包に対して水70ccで硬めに仕上げたものを使う。食いが渋い場合など、軽めのほうが反応が良いときには「力玉大粒」、目先の変化などくわせエサのローテーションが必要な場合に備えて、「感嘆」も用意したい。

セッティングの注意点

トラブル回避でしっかりとしたタックルに仕上げることが基本になる。軽量の仕掛けではウワズリを招きタナに寄せることが難しくなる。そのためウキの浮力に注意して、オモリ負荷量の多いものをセレクトすると良い。下ハリスの長さは長めから入りウキの動きを見ながら短くしていくほうがよい。

●オモリ 実寸大

竿 8 尺なら 0.25 ㎜厚板オモリ 17 ㎜ ×25 ㎜

竿 11 尺なら 0.25 ㎜厚板オモリ 17 ㎜ ×40 ㎜

●オモリ 実寸大

竿 12 尺なら 0.25 ㎜厚板オモリ 17 ㎜ ×45 ㎜

竿 16 尺なら 0.25 ㎜厚板オモリ 17 ㎜ ×55 ㎜

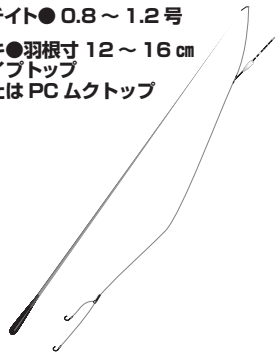
■短竿用セッティング

竿● 8 ～ 11 尺
ミチイト● 0.8 ～ 1.2 号
ウキ●羽根寸 8 ～ 11 ㎝
パイプトップ
または PC ムクトップ

ハリス●
上 0.5 号 6 ～ 8 ㎝
下 0.4 号 30 ～ 60 ㎝
ハリ●上 6 ～ 8 号、下 3 ～ 5 号

■中尺用セッティング

竿● 12 ～ 16 尺
ミチイト● 0.8 ～ 1.2 号
ウキ●羽根寸 12 ～ 16 ㎝
パイプトップ
または PC ムクトップ



ハリス●
上 0.5 号 6 ～ 8 ㎝
下 0.4 号 30 ～ 60 ㎝
ハリ●上 6 ～ 8 号、下 4 ～ 6 号

でしょう。

ウキはタナまで早めにエサを入れ、しっかりナジませてから縦誘いを入れるので、浮力のあるタイプを使用します。トップはパイプ・ムク、どちらでも良いですが、自分が釣りやすいものを選びます。高活性時にはパイプトップ、食い渋り時にはムクトップという使い分けでも良いでしょう。

短竿（8～11尺）向きバラケブレンド

タナでのバラケ性が強く強固な地合を作れる！

粒戦 100cc＋水 200cc＋段底 400cc＋プログラム 200cc＋セット専用バラケ 400cc

●作り方

「粒戦」をボウルに入れ、水を注いだら全体に行き渡らせたら 5～6 分ほど放置。そこに残りのエサを入れて熊手で大きく 20 回位かき混ぜる。全体に水が浸透したら OK。できあがりはボソッ気がありフワッとなる。

●特徴

エサ全体をまとめるのは「段底」で、「プログラム」は割れ落ちせずにタナで膨らむ役目。そこから「粒戦」と「セット専用バラケ」が下方向にバラけるので、タナをしっかり作れる。

●使い方のコツ

バラケ性の強いエサを持たせるにはエアーを抜き、ハリをエサのセンターに入れることで持たせることができる。エアーを抜く方法はいくつかあるが、確実にエアーを抜くには小分けにして 5～6 回押し練りをする。また、ハリ付けの際には指先で圧はかけにくいので、握るようにして圧をかける。また、大きめのエサのため、エサのセンターからハリがずれやすいので、ハリを押し込むようにするのがコツだ。

ウドンセットのチョーチン釣り

ブレンドの考え方

ベースエサ

段底

段差の底釣り用だけに重さと下方向のバラケ性が特徴。落下中でのバラケの膨らみを抑えられるので、エサ全体をまとめる役割も担っている。

セット専用バラケ

ネバリがでにくい性質なので、時間が経ってもバラケ性をキープできるセット釣り専用のバラケエサ。細かい粒子で縦方向のバラケを演出する。

ウワズリ防止

粒戦

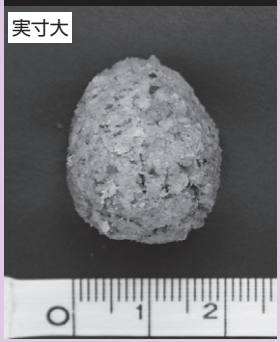
タナで膨らんだバラケエサからこぼれるように落下するので、へら鮒を下方向へ導くことができ、ウワズリの防止に最適なエサ。

タナでの膨らみ

プログラム

ボソ系のダンゴエサであるので、割れ落ちせず膨らむ特徴があり、ブレンドすることで、タナでの膨らみを演出できる。

●エサの大きさ



中尺（12～16尺）向きバラケブレンド

抜き系でも持たせ系でも対応可能

粒戦 100cc＋水 200cc＋
セット専用バラケ 400cc＋
ガッテン 200cc＋底バラ 200cc

●作り方

「粒戦」をボウルに入れ、水を注いだら全体に行き渡らせたら５～６分ほど放置。そこに残りのエサを入れて熊手で大きく 20 回位かき混ぜる。全体に水が浸透したら小分けにして使う。

●特徴

「セット専用バラケ」と「底バラ」は開く役割のエサで、それをネバリのある「ガッテン」でエサ全体の持ちを良くしている。軽くハリ付けすれば“抜き系”のバラケになり、エアーを抜いて押し練りを加えればしっかりナジむエサになる。

●使い方のコツ

　ある程度の水深があるので、持たせ気味のエサでタナに寄せるようにする。きちんとナジミ幅を入れて釣っていくのがコツだ。そのためには、「押し練り」、「エアー抜き」、「握るように練る」などでナジミ幅をコントロールしていく。ただし、エサをいじりすぎてしまうとバラケ性が失われるので、注意が必要だ。

ウドンセットのチョーチン釣り

ブレンドの考え方

ベースエサ

セット専用バラケ

麩材そのものがサラッとしており、多少の練りを加えてもバラける特性がある。また、集魚性が高いこともあり、バラケエサの核になることが多い。エサ全体にネバリがでたときでも「セット専用バラケ」を振りかけて押し練りを加えるだけでバラケ性が蘇る。

ネバリ効果でエサ持ち UP

ガッテン
ネバリのでるエサなので、エサとエサをつなぐ効果がある。ブレンドの中に１点でもネバリ系が入ることで硬さではなく“ネバリ”でエサを持たせることができる。

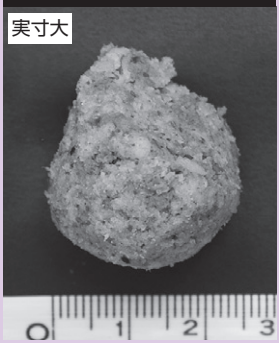
集魚効果、バラケ性 UP

底バラ
さなぎ粉が多く入ったエサで集魚性が強い。バラケ性の高いエサながらまとまり感がでやすいので、持ってバラけるエサ。

ウワズリ防止

粒戦
タナで膨らんだバラケエサからこぼれるように落下するので、へら鮒を下方向へ導くことができ、ウワズリの防止に最適なエサ。

●エサの大きさ



管理釣り場の新べら狙い！

アピール抜群！ハリ抜けしない!!

新べらグルテン 50cc＋グルテン四季50cc＋水100cc

＋

＋

●作り方

「新べらグルテン」と「グルテン四季」を粉のうちに良く混ぜてから水を注ぎ20回ほど丁寧にかき混ぜる。完全に水が行き渡ったらそのまま５～６分放置する。固まりだしたらそれをほぐしてできあがり。

●特徴

ボソで抜けが良い「新べらグルテン」は名前のとおり、新べら狙いに最適で、エサの落下中から膨らんでアピールし、それを膨らみが早いながらもまとまりのある「グルテン四季」とブレンドすることで、エサ抜けを防いで食いアタリに繋げることができる。

●使い方のコツ

グルテンエサは手直しでエサ合わせするのでなく、へら鮒が反応するエサを作り変えて見つけていくのが基本だ。「新べらグルテン」と「グルテン四季」の比率を５対５で始めるが、ウキの動きが少ないときは、「新べらグルテン」の割合を増やし、エサを持たせたいときは「グルテン四季」の割合を増やしていく。このとき、粉100 cc：水100 ccにすると分かりやすい。また、軟らかくしたいときは、水を５ccずつ増やして作ると良い。

両グルテンの沖宙釣り

ブレンドの考え方

ベースエサ

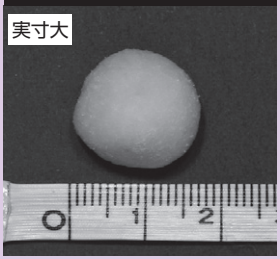
新べらグルテン

放流後の新べら狙いに最適な軽いグルテンエサ。ボソで抜けがよいことから、集魚性とアピール力が高いので両グルテンの釣りに抜群の威力を発揮する。

ハリ抜け防止

グルテン四季
エサの膨らみが早いながら、膨らんだまましっかりとハリに残るので、待つことも誘うこともできる。「新べらグルテン」との組み合わせでは、マッシュの抜けがよくアピール力抜群ながら、マッシュとグルテンがほどよくハリ残りする。

●エサの大きさ



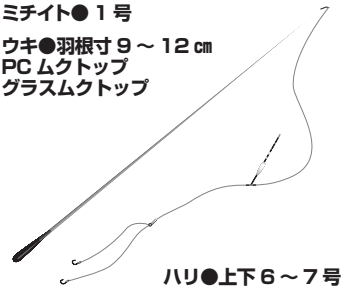
高活性時なら
「新べらグルテン底」をベースに！
活性が高くへら鮒がはしゃぎ気味なときは「新べらグルテン」を「新べらグルテン底」にしてみよう。

セッティングの注意点

ねらうタナは 1.5 ～ 2.5 m ぐらいで、中間の 2 m からスタートする。そこから新べらが反応するタナを探るが、このとき大きく動かすときは、ハリスの長さ分、細かく探るときはウキ 1 本分を目安とすると良い。ウキのトップは、エサの落下中のアタリを積極的にねらうためにもムクタイプがよい。

■セッティング

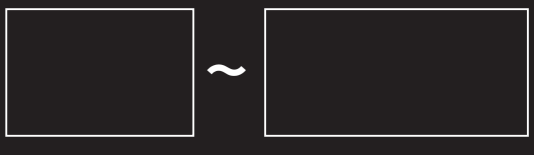
竿●規定一杯最長
ミチイト● 1 号
ウキ●羽根寸 9 ～ 12 ㎝
PC ムクトップ
グラスムクトップ



ハリ●上下 6 ～ 7 号
ハリス● 0.5 号
上 40 ～ 55 ㎝ 、下 60 ～ 70 ㎝

●オモリ 実寸大

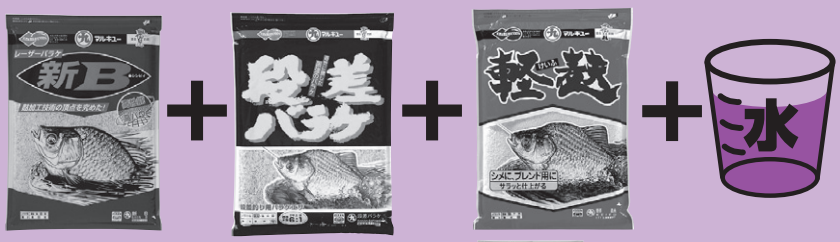
0.25 ㎜厚板オモリ 17 ㎜ ×25 ㎜～ 0.25 ㎜厚板オモリ 17 ㎜ ×35 ㎜



新旧混じりながら大型を揃える！
しっかりナジみ、タナでバラける!!

●バラケエサ

新B400cc＋段差バラケ400cc＋軽麩400cc＋水200cc



●くわせエサ

グルテンα21 50cc＋水60cc

●作り方

バラケエサは粉のうちに混ぜ合わせ、そこに水を注いで20～30回ほどかき混ぜ、押し練りを加えてエアーを抜いて使う。グルテンは水を入れてかき混ぜ、固まったらボウルの片側に寄せてエアーを抜いて使う。

●特徴

バラケエサは「軽麩」のまとまりでタナまで持ち、「新B」の集魚力、「段差バラケ」のバラケ性がタナで効果を発揮する。くわせエサのグルテンは繊維が強くしっかり持つタイプ。

●使い方のコツ

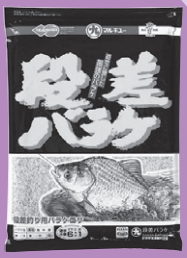
バラケエサはかならずしっかりナジむように圧調整してエサ付けすること。よりしっかり持たせたい場合は、「軽麩」400ccを「ガッテン」200ccに変える。くわせエサのグルテンの持ちが悪い場合は、粉1：水1で硬めに作る。

グルテンセットの沖宙釣り

ブレンドの考え方

ベースエサ

新B
強力な集魚と重めの麩がタナへへら鮒を厚く寄せる。



段差バラケ
漂うようなバラケ性がへら鮒をねらいのタナへ集魚する。

軽さとまとまり

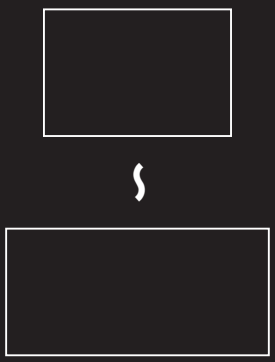
軽麩
きめの細かい麩で締めエサに最適。エサ全体を軽くまとめてくれる。

より強いまとまり

ガッテン
浅ダナ向きのダンゴエサ。「軽麩」より重くしっかりとエサをまとめたいときはこちらに変える。

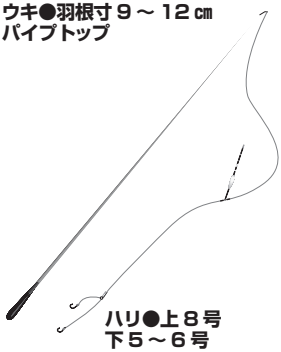
●オモリ 実寸大

0.25㎜厚板オモリ 17㎜ ×25㎜～
0.25㎜厚板オモリ 17㎜ ×35㎜



■セッティング

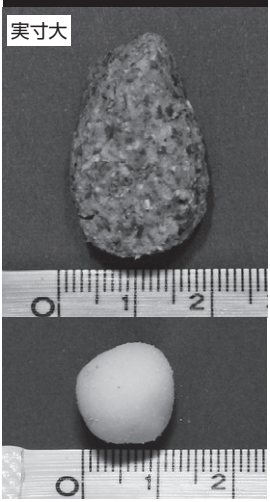
竿●規定一杯最長
ミチイト● 1号
ウキ●羽根寸 9～12㎝
パイプトップ



ハリ●上8号
下5～6号

ハリス●上0.5号 15～20㎝、
下0.4号 50～65㎝

●エサの大きさ



規定一杯の長竿での沖底
「膨らむ」グルテンで新べらを狙う !!

グルテン四季100cc＋わたグル50cc＋水150cc

＋

＋

●作り方

「グルテン四季」と「わたグル」を粉のうちに良く混ぜてから水を注ぎ 10～20 回ほど丁寧にかき混ぜる。完全に水が行き渡ったらボールの片側に寄せてそのまま５～６分放置する。

●特徴

「グルテン四季」は水中で膨らむ特性があり、魚を寄せる効果がある。「わたグル」はグルテン繊維が強く、エサ持ちを良くする。膨らむグルテンと、エサ持ちを良くするグルテンをブレンドすることで、アピールがありながら食わせることができるエサとなる

●使い方のコツ

５～６分放置したエサの下部は水分が多くしっとりタッチになっている。一方エサの上部はボソッとしてバラケやすいものとなっている。その違いを生かして、エサを半分に分け一方はひっくり返して使用することで、違ったタイプのグルテンエサを打ち分けることができる。また、エサ全体を軟らかくしたいときにはエサを山型にして上部から手水を落とすことで水分は下方に浸透して徐々に軟らかくなる。

両グルテンの底釣り

ブレンドの考え方

ベースエサ

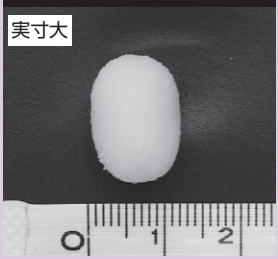
グルテン四季

水中での膨らみが良く単品での使用も可能な使いやすいエサになっている。対水比１対１で仕上げるとやや軟らかくなり、マッシュポテトのフレークも大小様々ブレンドされているので、膨らみとエサ持ちのバランスが良い中間的なグルテンエサ。

エサ持ち UP

わたグル
グルテン繊維の強いタイプなので、ブレンドすることでエサ持ちを良くしてくれるので、エサを軟らかくしてもハリ抜けしにくくなる。また、軽く膨らむことから食い渋り時にも威力を発揮する。

●エサの大きさ

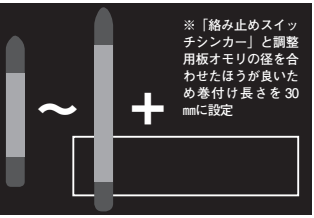


セッティングの注意点

竿は沖打ちが基本で、釣り場の規定一杯最長を使用する。ウキは水深とへら鮒の活性でサイズをセレクトするが、ミチイトがしっかり張るように浮力のあるものを選びたい。トップは活性があるときは「パイプ」で、渋いときには「ムク」を使用する。ハリスは大型が多いところでは長め（上 40 ㎝、下 47 ㎝）、型が小さくなるにつれて５～ 10 ㎝ずつ短くする。

●オモリ 実寸大

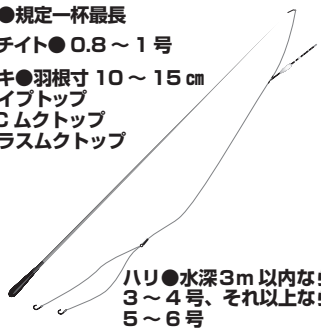
「絡み止めスイッチシンカー」0.8g ＋ 0.25 ㎜厚板オモリ 8 ㎜ × 30 ㎜～「絡み止めスイッチシンカー」1.2g ＋ 0.25 ㎜厚板オモリ 8 ㎜ ×30 ㎜



※「絡み止めスイッチシンカー」と調整用板オモリの径を合わせたほうが良いため巻付け長さを 30 ㎜に設定

■セッティング

竿●規定一杯最長
ミチイト● 0.8 ～ 1 号
ウキ●羽根寸 10 ～ 15 ㎝
パイプトップ
PC ムクトップ
グラスムクトップ



ハリ●水深３m 以内なら３～４号、それ以上なら５～６号
ハリス● 0.3 ～ 0.4 号
上 30 ～ 45 ㎝ 、下 37 ～ 52 ㎝

管理でも野釣りでも実績アリ!!
底への集魚が抜群で「寄せて食わせる」

●バラケエサ

ペレ底100cc＋ダンゴの底釣り冬100cc＋水180cc＋バラケマッハ100cc

●くわせエサ

グルテンα21 50cc＋いもグルテン30cc＋水100cc

●作り方

バラケエサは「ペレ底」と「ダンゴの底釣り冬」に水を入れてドロドロにしてから「バラケマッハ」を入れて均一に混ぜる。くわせエサは水を入れて20回ほどかき混ぜて5～6分放置する。

●特徴

バラケエサは重さがあり集魚性が高い。底釣りの場合、底にエサが溜まることで寄りを確保する。くわせエサはグルテン繊維の多いものと、重さがあるタイプを組み合わせ、エサ持ちと底での安定を意識している。

●使い方のコツ

バラケエサは小分けにして、手水を打ちながらしっとりヤワに仕上げていく。エサのサイズはパチンコ玉位であまり大きくハリ付けしない。くわせのグルテンも同様に小分けにして押し練りでエアーを抜き、エサ持ちを良くする。

グルテンセットの底釣り

ブレンドの考え方

ベースエサ

ペレ底

ペレットの寄せ効果と重さで底に魚が溜まるようになるうえ、ウワズリにくくもなるので、底釣りのバラケエサのベースにも最適。

軽さとまとまり

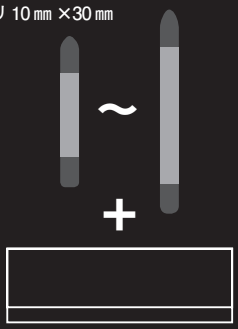
ダンゴの底釣り冬
底釣りエサのなかでは軽いタイプで、グルテン繊維を含むのでまとまりもよく、エサ持ちを良くしてくれる。

膨らみと集魚

バラケマッハ
まとまりのよい底釣りエサを水中で膨らませる役目を担う。これにより、集魚の役目も果たす。

●オモリ 実寸大

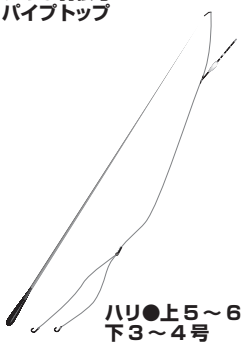
「絡み止めスイッチシンカー」0.8g＋0.25㎜厚板オモリ 8㎜×30㎜～「絡み止めスイッチシンカー」1.2g＋0.25㎜厚板オモリ 10㎜×30㎜



※「絡み止めスイッチシンカー」と調整用板オモリの径を合わせたほうが良いため巻付け長さを 30㎜に設定

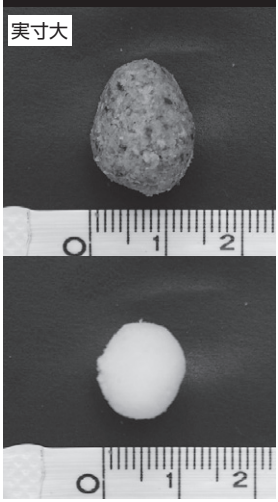
■セッティング

竿●竿一杯で底が取れる長さ
ミチイト● 0.8～1号
ウキ●羽根寸 12～16㎝ パイプトップ



ハリ●上5～6号、下3～4号
ハリス● 0.4～0.5号
上40～45㎝、下45～55㎝

●エサの大きさ



つれるエサづくり一筋
マルキユー

「まずは」も「ここぞ」も「力玉」。

いまや、セットのくわせのド本命。
そういっても過言ではないのが「力玉」です。
魅力のひとつは、ビンから取り出しすぐに使える点。
「まずは」という気持ちで、スムーズにウドンセットに入れる。
それでいて、ウキの動きを引き出せる軽さと、
吸い込みやすさがあるから、
「ここぞ」という場面での主戦力にもなりうる。
すぐに釣り始めたいとき、
少しでも多くのアタリを拾っていきたいとき、
手軽に使えて本格釣果が望める「力玉」の出番です。

●力玉
40g　冬季限定品

●力玉大粒
70g　冬季限定品

マルキユー株式会社　〒363-8509 埼玉県桶川市赤堀2-4 TEL.048-728-0909
ホームページアドレス http://www.marukyu.com/

釣れるヒント満載!!
へら鮒天国

マルキユーへら鮒メールマガジンも、お申込はこちらから。http://www.marukyu.com/herabunatengoku/

2011.12.SA.20000